

世界を変えた偉人は何を考え、何を見たか

原著から本質を学ぶ科学技術講座 第17回

参加費無料

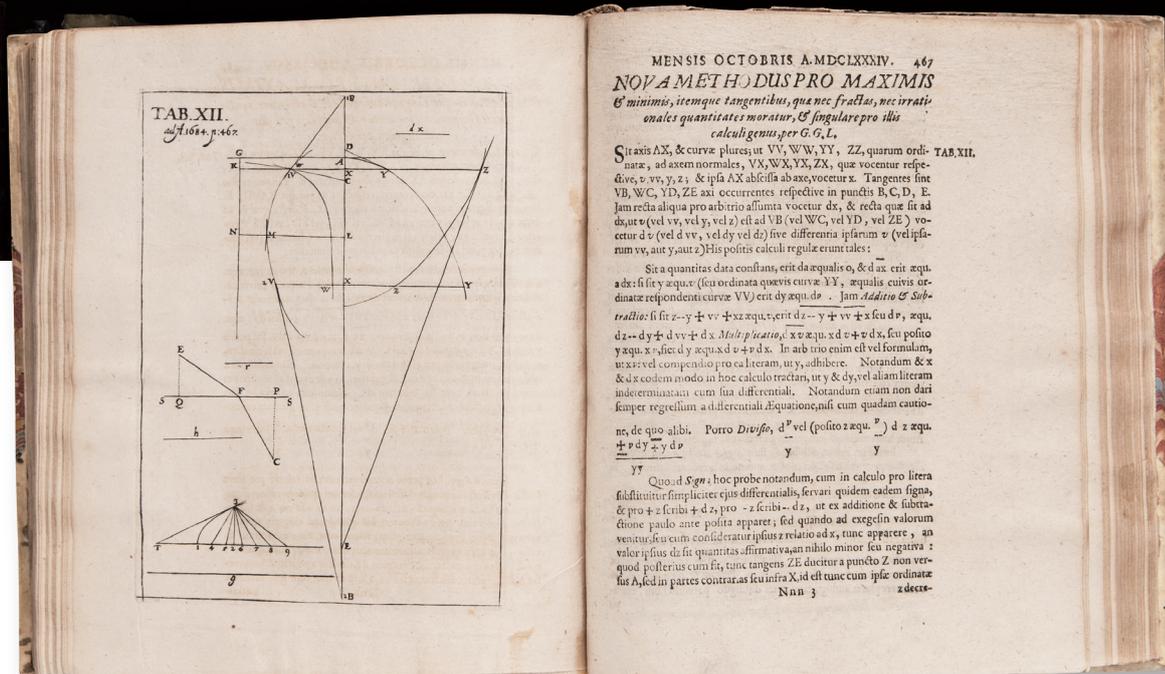


写真:金沢工業大学ライブラリーセンター工学の曙文庫所蔵
ゴットフリート・ウィルヘルム・ライプニッツ「極大と極小に関する新しい方法」1684年 初版

ゴットフリート・ライプニッツは何を考え、何を見たか

～極大と極小に関する新しい方法を原著論文より学ぶ～

金沢工業大学は、科学的発見や技術的発明が最初に発表された約2,000点の稀観書を所蔵しており、これらを活用し「学問の本質を学び、未来にチャレンジする」教育・研究を行っています。現在のドイツ出身であるライプニッツが、パリに滞在していた1672年から1676年の間に微積分法の基本に到達していたようであるが、今回紹介する論文において、ライプニッツの微分法に対する基本的な成果がまとめられている。関数の和・差・積・商に対する微分演算の基本公式も冒頭に述べており、タイトル通り、微分係数の符号を調べることで関数の極大・極小が調べられること、微分係数が接線の傾きであることが説明されている。

本講座ではこの論文の内容を解説するとともに、ライプニッツ

が本論文の執筆に至るまでの背景についても紹介したい。ライプニッツは、数学者であるだけでなく法律学者、哲学者としても多くの仕事をしているが、彼自身にとっては、あらゆる学問を統一的に体系化しようという試みの中の当然の結果であった。このような統一的な思想があったからこそ、現代数学に引き継がれる記号や用語をも、ライプニッツが生み出すことができたのであろう。

本論文を通してライプニッツについて学び始めたばかりですが、その壮大な思索の一端を本講座で紹介したいと思います。皆様にも原著と一緒に見て頂き、現代の高校生にとってもその内容が見て取れるほどに洗練されたライプニッツの思考の大きさを感じて頂ければ幸いです。

日程 2019年12月21日(土) 9:30～12:30

講師 金沢工業大学 数理基礎教育課程/准教授 山岡英孝

会場
メイン会場:金沢工業大学 扇が丘キャンパス内Challenge Lab(26号館)
〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7-1
サテライト会場:金沢工業大学 虎ノ門キャンパス13F ※1
〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-4 愛宕東洋ビル13F

定員 扇が丘キャンパス50名/虎ノ門キャンパス30名

※1.本講座は物理的に離れた空間をつなぎ、虎ノ門キャンパスでも扇が丘キャンパスと同様に臨場感ある講座を受講できます。



Kanazawa Institute of Technology

お問い合わせ 金沢工業大学 企画部 TEL:076-246-4784
gencho@mlist.kanazawa-it.ac.jp

お申し込みは
WEBサイトより

